

修士論文要旨（平成六年度）

平成六年度に提出された修士論文は、文学研究科国文学専攻五編、同研究科文化財史料学専攻六編、社会学研究科社会学専攻二編の、合わせて十三編で、以下に各論文の要旨を掲載する。

このうち、文化財史料学専攻太田浩司の修士論文「亀甲繫文様／象徴性と思想性」（改題「東アジアにみられる亀甲文様の美術考古学的研究」）及び三輪晃三の修士論文「九州阿高式系・縁帯文系土器群の研究―縄文中・後期の七器ホライズンの形成とその背景―」はともに補稿し本号に論文として所収、論文要旨は掲載を割愛した。